

事例 35

タイトル： お風呂が新しくなり、あまり入りたくないのだが・・・

・ <事例の状況>

昨年、施設の浴室改修工事があり、入浴形態が変わった。以前から入浴中は鼻までつかり髭を剃っていたが、心臓が悪く長湯はたびたび注意されていた。新しい浴槽になり、スタッフと一対一で入る個人浴槽になった。入浴の声掛けに、あまり良い返事はしていなかったが、最初の頃は入浴をしていた。最近は返事をしてしても足早に立ち去り、入浴・洗髪をしていない。

・ <この事例で課題と感じている点>

Aさんは、このところ月1回程度の入浴なので、もう少し入浴・洗髪ができればよいが。

・ <キーワード>

入浴・洗髪をして欲しい

・ <事例概要>

【年 齢】 70歳代後半

【性 別】 男性

【職 歴】 市内の建設現場で働いていた

【家族構成】 姉は近接県在住、弟は近接市在住しているが、音信はほとんど無い。

【認知機能】 測定していない

【要介護状態区分】 要介護1

【認知症高齢者の日常生活自立度】 b

【既往歴】 脳梗塞後遺症（左上下肢不自由）心不全、心房細動、狭心症

【現 病】 心肥大、心房細動

【服用薬】 パナルジン（朝・夕）、ナールリシン（朝）、酸化マグネシウム（朝・夕）

【コミュニケーション能力】 その場の会話は成り立つが、すぐに忘れてしまう

【性格・気質】 穏やかな面と頑固な面がある。

【A D L】 ほぼ自立しているが、衣類は声掛けしないと同じものを着ている。

パジャマ更衣等は、面倒がりしない。

【障害老人自立度】 A2

【生きがい・趣味】 テレビを見るのが好き

【生活歴】 20歳頃から、家を出て日雇い人夫をし、職場を転々とする。40歳代半ば頃から市内の建設会社に勤務する。60歳代後半に、脳梗塞を発症、左半身不自由となり就労不可。社長の好意により、住居を援助してもらい単身生活。心房細動、不整脈、狭心症等により入退院を繰り返す。生活保護受給。食生活は不安定、生活意欲低下により、たびたび発症を繰り返す。主治医からホーム入居を勧められ、本人も一人暮らし及び病状の不安からホーム入居を希望。

夜間はテレビを見て、昼に起床。食事はコンビニエンスストアで調達し、洗濯はコインランドリー、入浴は銭湯、といった生活をしてきた。お茶は飲まないで水を水道の蛇口から飲んでいった。

60歳代後半に施設入居し、その後もたびたび、職場に遊びに行っていたが、一人で帰ることができなくなってきた頃から、職場には行かなくなった。

新しいことを認識できず、面会の姉の持ってきた衣類等、「自分の物でない。」と言ってくる。毎日、ベッド上でテレビを見て過ごしている。食事は、リハビリを兼ねて三食共2階食堂へ杖歩行で階段を使い行っている。下膳も片手で持って行っている。

行事・サークル等にはほとんど参加しない。

【人間関係】 キーパーソンの姉が年に1~2回面会に来るが、認識できなくなってきている。

施設では、自ら話し掛けることはないが、話し掛けると穏やかに対応している。

【本人の意向】 ありがたい暮らしだと思っている

【事例の発生場所】 特別養護老人ホーム